

# FUJITSU Software

システムウォーカー ランブック オートメーション

## Systemwalker Runbook Automation V15

### センター運用及びクラウド運用の各種作業を運用フローで自動化

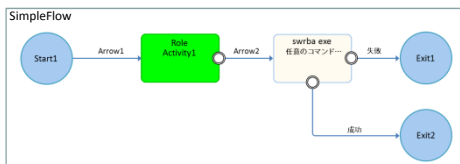
企業運用手順書に従って人手で行っていた運用作業を自動化することで、センター運用の作業負荷軽減と作業品質向上を同時に実現。自動化されたセンター運用によりクラウドサービスを行う環境でも安全・確実なサービスを提供します。

#### センター運用の作業負荷を軽減

##### 手順書を見ながら行っている日々の運用作業の自動化

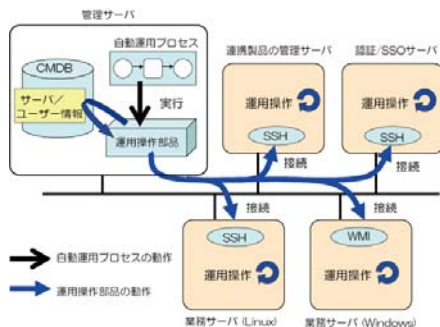
センター運用では、サーバの導入やシステムの監視など多種多様な作業を行っています。従来、これらの作業は運用手順書に従って人手により実施していました。

FUJITSU Software Systemwalker Runbook Automationでは、サーバ/OS/ミドルウェアなどに対する操作（電源制御やファイル転送、サービスの起動・停止など）だけでなく、人が行う確認や判断も含めて、「自動運用プロセス（運用フロー）」を作成できます。作成した「自動運用プロセス」を実行することで、運用作業の自動化、運用の作業負荷を軽減できます。



#### 仮想化(クラウド)や大規模環境にも対応 物理環境・仮想化環境に依存しない運用

「自動運用プロセス」は、CMDB※との連携により、センターの物理環境や仮想環境を意識せずに作成できます。センターに物理サーバや仮想サーバを追加しても「自動運用プロセス」を手直しせずに運用できます。



※:CMDB (Configuration Management Data Base)

#### 「自動運用プロセス」化による運用品質の向上

##### 属人化を排除した作業の均質化

「自動運用プロセス」を利用することで、たとえば、従来、問題が発生した場合の診断、分析、復旧作業などの属人化していた作業の品質を均質化でき、センターの運用品質が向上します。



#### カレンダースケジュールによる確実な実行

「自動運用プロセス」は、作業手順の自動化だけでなく、カレンダースケジュールにより月間の運用スケジュールの自動化もできます。スケジュール運用による確実な実行と、お客様の運用要件にあった柔軟な運用が可能です。



#### 効率的な自動運用プロセスの作成

##### GUIによる開発/デバッグ

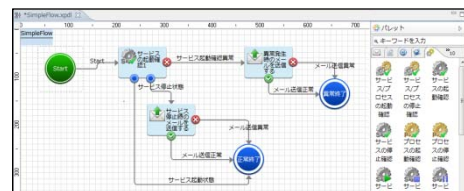
豊富な「運用操作部品」や「テンプレート※」を活用して簡単に「自動運用プロセス」を作成できます。操作は基本的にドラッグ&ドロップででき、作業ごとにカテゴリ化された「運用操作部品」を配置するだけで簡単に「自動運用プロセス」を作成できます。

作成した「自動運用プロセス」のデバッグは、GUI上でフローの流れや変数の変化を確認しながら行うことができます。

※:運用操作部品を組み合わせることで予め作成されている標準提供の自動運用プロセス

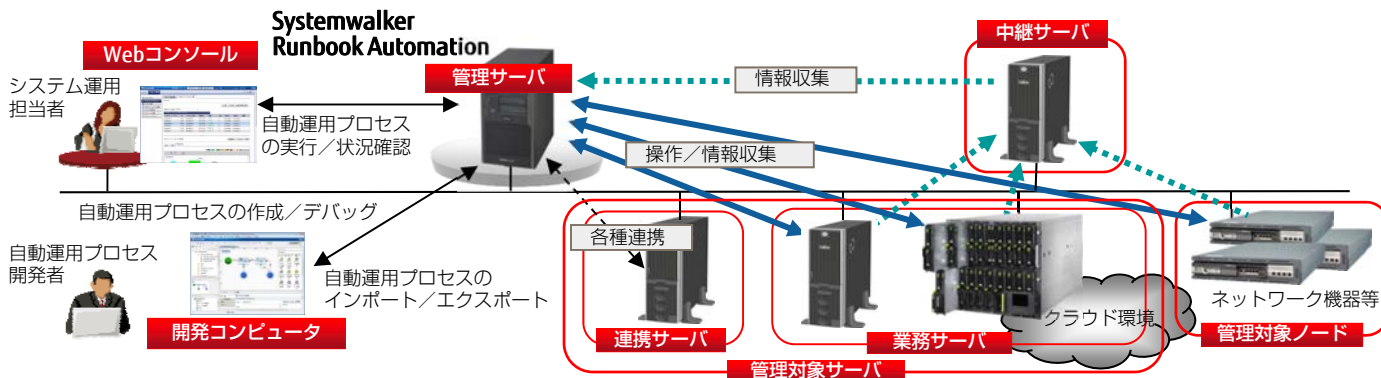
#### 「自動運用プロセス」作成を容易にする「運用操作部品」群

「運用操作部品」では、運用の流れに沿った運用操作部品(例:サーバ停止指示/待ち合わせ/停止確認)を用意しています。また、複数の対象を扱うためグループ処理部品や繰り返し処理を行う操作部品を予め準備しています。これらを利用することにより多数の処理対象を簡単に扱うことができます。



#### 容易な運用操作部品間の連携

「運用操作部品」の出力情報を加工する機能を準備しています。例えば、ipconfigコマンドの結果を取り込んで、IPアドレスだけを取り出すような処理もプログラムレスで簡単にいきます。



**商品体系**

**FUJITSU Software Systemwalker Runbook Automation V15**

- Systemwalker Runbook Automation メディアパック V15\*1
- Systemwalker Runbook Automation プロセッサライセンス (管理対象サーバ用) V15\*2
- Systemwalker Runbook Automation ノードライセンス (管理対象ノード用) V15\*3

\*1: メディアパックは、インストール用媒体商品です。別途、必要なライセンスをご購入ください。  
 \*2: 管理対象サーバのプロセッサ数を対象としたライセンス (1年間24時間サポート付) です。本商品では、管理対象サーバのプロセッサ数分 (マルチコアプロセッサ搭載サーバの場合はコア数) に応じたライセンスが必要です。ライセンスパック商品もございます。詳しくは、弊社営業にお問い合わせください。  
 \*3: ネットワーク機器等のノードを対象としたライセンス (1年間24時間サポート付) です。本商品では、ノード数分のライセンスが必要です。

**動作環境** ※ 最新の情報は、ホームページをご確認ください。

種類/用途	動作OS
管理サーバ	Microsoft® Windows Server® 2016 Microsoft® Windows Server® 2012 R2 Microsoft® Windows Server® 2012 Red Hat Enterprise Linux 6 Red Hat Enterprise Linux 5
業務サーバ 中継サーバ 連携サーバ	Microsoft® Windows Server® 2016 Microsoft® Windows Server® 2012 R2 Microsoft® Windows Server® 2012 Microsoft Windows Server 2008 R2*1 Microsoft Windows Server 2008*1 Red Hat Enterprise Linux 7 Red Hat Enterprise Linux 6 Red Hat Enterprise Linux 5*1 Oracle Solaris 11*1 Oracle Solaris 10*1
管理対象ノード	-*2
開発コンピュータ	Windows® 10 Windows® 8.1 Windows® 7 Microsoft® Windows Server® 2016 Microsoft® Windows Server® 2012 R2 Microsoft® Windows Server® 2012
Webコンソール	Internet Explorer® 11 Internet Explorer® 10

\*1: 業務サーバのみのサポートです。  
 \*2: ネットワーク上のIPアドレスで特定でき、リモートアクセスプロトコル (telnet, ftp, ssh等) で操作ができる機器が対象です。

管理サーバの推奨環境	推奨CPU	メモリ容量
	3GHz以上	10GB 以上

※標準的な運用モデル (業務サーバ数 1000台規模のデータセンターにおいて、50台の業務サーバに対して同時に操作を行う運用モデル) の場合です。システム環境によって異なる場合があります。

**管理サーバ**

運用作業を自動化する自動運用プロセスの実行と実行結果などの管理を行うサーバです。Systemwalker Runbook Automationのマネージャー機能が動作します。

**管理対象サーバ/管理対象ノード**

管理対象サーバは、自動運用プロセスの実行により、管理サーバから実際の操作が行われるサーバです。Systemwalker Runbook Automationのエージェント機能を導入することもできます。管理対象ノードは、ネットワーク機器等のノードです。管理サーバから操作や情報取得が行われます。

**中継サーバ**

Systemwalker Runbook Automationの管理サーバへの構成情報の自動収集処理の負荷を分散する場合に設置するサーバです。大規模なシステムを管理する場合に導入します。

**連携サーバ**

Systemwalker Runbook Automationと連携する製品が動作するサーバです。連携の方法に応じて本製品のエージェントの導入の要否が変わります。連携する製品にはSystemwalker Centric ManagerやServerView Resource Orchestratorなどがあります。

**業務サーバ**

管理サーバから操作される対象の業務サーバです。

**開発コンピュータ**

自動運用プロセスを作成するためのコンピュータです。

**Webコンソール**

Systemwalker Runbook Automationの自動運用プロセスの実行や操作、動作状況の確認ができます。

**仮想環境での運用について**

- 本商品は、仮想環境での運用について、以下の製品に対応しています。
- VMware vSphere 4 ESX 4.0/4.1、ESXi4.1
  - VMware vSphere 5 ESXi 5.0/5.1/5.5
  - VMware vSphere 6\*1
  - Hyper-V 4.0/5.0/6.2/7.0
  - Red Hat Enterprise Linux 5 仮想マシン機能 (Xen) (業務サーバのみ)
  - Red Hat Enterprise Linux 6 仮想マシン機能 (KVM)
  - Red Hat Enterprise Linux 7 仮想マシン機能 (KVM)
- \*1: vSphere6.7は、サポート対象外です。

\*本商品は、プライベートクラウド対応ソフトウェアとして環境配慮ソリューションに登録しています。  
 \*このカタログは、2018年10月現在のものです。改良のため予告なしに仕様・デザイン等を変更することがあります。  
 \*Microsoft、Windows、Windowsは、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標です。  
 \*Oracle SolarisはSolaris、Solaris Operating System、Solaris OSと記載することがあります。  
 \*OracleとJavaは、Oracle Corporationおよびその子会社、関連会社の米国およびその他の国における登録商標です。  
 \*Red Hat、RPMおよびRed Hatをベースとしたすべての商標とロゴは、Red Hat, Inc.の米国およびその他の国における登録商標または商標です。  
 \*製品名などの固有名称は各社の商標または登録商標です。  
 \*その他、本資料に記載されているシステム名、製品名などには必ずしも商標表示 (TM・®) を付記していません。



**製品・サービスについてのお問い合わせは**

富士通コンタクトライン  
**0120-933-200**

受付時間 9:00~17:30 (土・日・祝日・当社指定の休業日を除く)

**富士通株式会社** 〒105-7123 東京都港区東新橋1-5-2 汐留シティセンター

<http://www.fujitsu.com/jp/software/systemwalker/runbook/>